

第1回研修会概要

【実践発表】

発表題：「防災対策～公民館だからできること～」

発表館：倉敷市郷内公民館

平成23年9月に起こった土砂災害を受け、日頃の地域とのつながりが減災へとつながるという思いから公民館を運営してこられた郷内公民館のお取組を、伊達豪志館長に発表いただきました。

<概要>

- 普段からのつながり（連携）を大切にしている。
気軽に来館してもらえよう、日頃のちょっとした関わりを心掛けている。
そうすることで、いざという時、協力体制が生まれ防災力が高まる。
- 防災意識を高められるよう、防災講座を実施したり防災マップを作成・掲示したりした。
- 多様な団体が利用する公民館だからこそ、つながるチャンスがある。
公民館が核となり、地域住民・団体を結んでいった。

<アンケートから>

- 防災講座を、詳しく聞きたい。
→防災意識を高めてもらえるよう、対象は小学生から高齢者まで。
地元の小地域ケア会議、婦人会主催の女性祭で実施。
防災の講演やクイズ、クロスロードゲームなどを行った。
※クロスロードゲーム
災害時を想定した二つの選択肢からどちらを選ぶか考える。
他の参加者で行うことで異なる意見や視点、価値観に気づくことができる。



【講演】

講演題：「日々のつながりが災害時に生きる」

講師：まち・コミュニケーション 代表理事 宮定 章 氏

講師の実体験をもとに、実際に災害が起きたときにどのように対処したらよいかなど、詳しく御講演くださいました。

<概要>

- 災害が起こる前に、公民館としてできること
 - ①地域住民へ防災知識を提供する。
 - ②公民館を利用してもらい、施設を知ってもらう。
→心理的バリアフリー
 - ③職員と利用者、利用者同士がお互い知り合い、特技を知る。
 - ④地縁組織とつながり、連携する。
- 生活再建、地域文化の情報の発信基地となるように。

<アンケートから>

- 防災士は、どのような活動をされているのか、どのように育成しているのか。
→特定非営利活動法人日本防災士機構が認証する民間資格で、どなたでも防災士の資格取得できる。防災士の基本理念は、『防災士とは“自助”“共助”“協働”を原則として、社会の様々な場で防災力を高める活動が期待される。』とされており、各地で防災の啓発活動に取り組みされている。現在、地方公共団体等が防災士養成講座を実施。岡山県内でも、防災士育成の経費補助を行う市町村や資格取得ができる大学もある。

